

地盤工学会 男女共同参画・ダイバーシティに関する委員会

平成 30 年度第 1 回 (H30. 9. 18) 議事録

☆ 前回議事録確認【別紙-1】 pp.1-4

確認済ということで内容了承

☆ 報告事項

1. 会員支部部会、理事会状況 (北田委員)

(次回委員会で報告)

2. 他学会の状況 (口頭にて報告)

○土木学会 (平永委員)

・ 10 月第 1 週に土木学会 D&I ウィーク開催。内容は、ダイバーシティフォーラム (基調講演とパネルディスカッション) の開催、ポスター募集と展示、D&I カフェ開催であった。

・ フォーラムは参加者 150 名超、外部講師を招き働き方改革を議論した。カフェも盛況であった。

○男女共同参画学協会

・ 連絡会 (尾原委員)

分担金について、オブザーバーである地盤工学会は 5,000 円→10,000 円/年に負担増となる見込み。当委員会予算としては織込み済。

・ シンポジウム (片岡委員長)

11/13 (火) 開催予定、山口先生がご出席予定

3. 第 53 回地盤工学会研究発表会 開催報告

○特別セッション (片岡委員長、平永委員) 【別紙-2】 pp.5-11

・ 学会誌への投稿記事に関する説明が片岡委員長よりあった。

・ 誤字を修正することを前提に、内容については了承。

・ アンケート結果についての報告が平永委員よりあった。

参加したきっかけが、委員会からのメールと答えた人が最も多く、サポーターメールが功を奏していることが分かった。また、来年度のセッションで取り上げて欲しい話題、並びに委員会で取り上げて欲しい内容については、どの話題についてもほぼ均等に関心が高いことが分かった。全体として、セッションに参加してよかった、との高評価のコメントが多かった。

○サロン・土・カフェW (隅倉オブザーバー)

【別紙-3】 pp.12-19

- ・学会誌への投稿記事に関する説明が行われた。内容については了承された。
- ・アンケート結果の説明では、参加が初めてという方が全体の 1/3 と例年より多かったこと、参加してよかったという好意的なコメントが多く寄せられた、との報告があった。

4. 技術者紹介 web 版の配信状況 (高原委員、渡邊委員)

- ・2018 年 6 月の北田理事の記事まで配信済みであることを確認

5. 女子中高生夏の学校 開催報告 (清木委員)

- ・地盤工学会のブースには 12 名が来訪、どろ団子を並べ来訪者を待ったが、結局 12 名であった。
- ・隣のブースが土木学会であったが、実験道具、グッズ等が充実していた。
- ・(片岡委員長より問題提起) 来年度以降、夏の学校への対応をどうしていくか、悩ましいところである。学生の興味を引こうとなると、それなりに準備が必要であるが、そこまで対応できるか、夏学の他に効果的なイベントがあれば、そちらに学会としては注力すべきか。例えば出前授業なども一計か。
→来年度の夏学については別途、委員会として対応を整理することとなった。

6. サポーターメール配信状況 (藤原委員) 【別紙-4】 p.20

- ・技術者 web 紹介、サロン・土・カフェWの案内メールを発信したとの報告があった。

7. 土木学会年次学術講演会 (片岡委員長) 【別紙-5】 p.21

- ・8 月 29 日、土木学会全国大会において、D&I セッションが行われ、北田理事が地盤工学会の取組みについて発表した、との報告があった。
- ・このセッションでは他にも、日本技術士会、ゼネコン、コンサルタントにおける D&I の取組み事例、活動が報告され、情報の共有と意見交換がなされた、との報告があった。

8. その他

○会費減免制度について (北田委員) 【別紙-6】 pp.22-26

- ・運用開始から 8 年となる減免制度について、「会員増または会員継続の効果があるのかを示してほしい」との理事会の依頼を受け、北田理事が作成した資料である。
- ・制度の運用により、確実に女性会員が増えていること、減免制度の適用可能者総数に対する利用者割合が 8 年間で 20%→80%前後まで上昇していること、減免制度の切替えや適用期間終了後も会員を継続している割合が高いなど、効果があることは明らか。
- ・一方、「減免制度により、400 人の利用者の会費が半額、つまり 5 千円/人×400 人=2 百万円の収入が学会として減になっている。退会者が減ったとしても、学会として収入が減っていることを鑑みると効果があると言えるのか」との意見もある。

→・2百万円減ったというが、逆に400人が辞めないで継続していると考えれば、400人が退会したときよりも2百万円収入が増加している、ともいえる。一概に収入減と捉えるのは間違いではないか。

- ・減免制度が存在しない他学会の動向と比較するなど、効果を定量的に評価するには、さらに調査が必要ではないか。→他学会の動向調査等については、会員支部部会に提案する（片岡委員長）

○2019年度予算について（片岡委員長） 【別紙-7】 pp.27

- ・ほぼ2018年度並の計上。経費節減のため、理事会でweb会議が推奨されているので、当委員会でも今後大いに活用していきたい。

☆審議事項

1. 委員、オブザーバー、サポーターの新規加入（片岡委員長） 【別紙-8】 pp.28

- ・新委員として、楯田泰子氏、澤田茉莉伊氏に加入していただくことで了承。
山根茉莉子氏については本人の意向を尊重し、サポーターとして新規登録する。
- ・サポーター新規登録者について了承。まずは伊佐地さんが各人のアドレスを配信用アドレスに登録、その後、サポーターメールを配信する。

2. 第54回地盤工学会研究発表会 と

3. 70周年記念事業（片岡委員長） 【別紙-9】 pp.29-33

- ・来年度の全国大会での特別セッションについては、本部より、「70周年記念事業の一環で、特別セッションの拡大版という位置づけでの開催をお願いしたい」との依頼を受けた。
 - ・また、全国大会の実行委員長である桑野二郎先生からは、特別セッションとは別枠で、外国人や留学生向けの企画をお願いしたい旨の打診があった。
 - ・特別セッションについて平永委員より、外部有識者の方をお招きして、ダイバーシティの本質論あるいは実践例を示していただくことにより、セッション全体として「学会のダイバーシティの歩みとこれからの方向性、それが世の中の動きの中でどうなのか」を捉えられるとよいのでは、という提案があった。
 - ・一方、特別セッションとサロンドカフェWの開催時間としては、午後の2枠（現状の時間設定）が限界、これまでの話題（子育て、介護、働き方改革等）と外国人・留学生向けの話題を同時に盛り込む設定も難しい。
- どういった時間割、内容でこれらを実現していくかについては、今後引き続き議論する。
時間割はこれまで通り、午後1枠目は特別セッション（内容は拡大版）、午後2枠目にはサロンドカフェWとサロンドカフェW・internationalを同時開催か？

4. ダイバーシティ座談会 計画案（藤原委員）【別紙-10】 pp.34

- ・テーマは「子育てと仕事の両立～理想と現実～」

主に未就学児を持つ親を対象とする。

- ・開催時期は1月、子育て中の会員の参加を考慮し、昼食をはさんでの時間設定（11時半～14時半頃）とする。
- ・基本はワールドカフェ方式
- ・参加者募集はサポーターメールを利用。会費減免制度利用者にも声をかけたいため、学会所有のリスト（アドレス）をもとに伊佐治さんが個別に連絡する。

5. 技術者紹介 web 版 （高原先生） 【別紙-11】 pp.35～39

- ・現時点では2018年6月分まで掲載済み。今後は2018年12月、2019年4月、8月と掲載していく予定。
- ・掲載毎の担当班編成は p.36 の表のとおり。
班単位で執筆者候補をリストアップ→決定→執筆依頼を行う。
- ・原稿依頼の際の文面、メール本文について、統一した方がいいので、p.37～39 を作成した。これを今後使用する。

以上